

## 第5回 国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会 主なご意見

## ■ 基本理念・目指す施設像について

## 【目指す施設像について】

- ・災害というテーマに限らず、これまで仙台に蓄積された文化を発展させて、新しい都市文化を創造していくことが必要ではないか。
- ・仙台の歴史や東日本大震災で経験した文化力をより有効に発揮するため、未来に向けて、独自性のある創造発信をしていくことが必要ではないか。
- ・防災環境都市の歩みを知り、学び、人が生きるための知恵や術の創造ができる拠点を目指していくことが良いのではないか。
- ・複合施設は、既存施設のジャンルに区分されない、予想もできない施設が生まれてくることが想定される。施設の定義を難しくしすぎず、一定の想定を基、必要に応じて様々なものができる施設という柔軟な表現が良いのでは。
- ・コーディネーター、commons、交流人口・関係人口などに触れており、先進的な内容になっていると思うが、関係人口拡大の意義や方策などについて具体化が進んでいくと良い。

## ■ 機能・事業等について

## 【事業について】

- ・中心部震災メモリアル拠点の事業について、「実装」には、「災害文化を日常生活に取り入れる」、「3.11を心に刻む」の他に、災害時に実践するということを含めると良い。日常生活に「災害文化」を取り入れるからこそ、いつ来てもおかしくない災害のときに、実践できているということになるかと思う。
- ・研究では、協力の他、支援するという点も大事である。また、災害文化を普及啓発していくにあたり、その事業に係る研究や成果を発信できるような場所があると良い。
- ・AI技術も含め、IT社会の高度化が進んでおり、先端技術への対応は重要。今「バーチャル空間」と呼ばれているものが、いずれもう一つの「リアル空間」と呼ぶべきものとなることが予見されるので、機能や組織を考えるにあたり、そうしたものにも対応できると良い。

## ■ 施設整備の考え方について

## 【施設の支出と収入の考え方について】

- ・市民の方々に「私の施設」だという感覚を持っていただくことが重要。収支の考え方のところをもっと踏み込んで、それぞれの気持ちに沿って、様々な形で支えてもらうという要素を入れたら良いのではないか。

## 【周辺との関係について】

- ・地下鉄駅に関しては、単に利便性を強調するのではなく、街中との近さや、青葉山という自然と一体化した地域の核となるというような要素を基本構想に盛り込むと良いのではないか。
- ・沿岸部施設との関係性については、地下鉄東西線で繋がっていることから、国際センター駅から本施設と沿岸部の震災メモリアル施設や各種文化施設等とを繋ぐ、積極的な位置づけができるのではないか。

## 【整備に向けた今後の進め方について】

- ・この複合施設は、東日本大震災に限定されず、過去の災害文化の蓄積を踏まえるものであることが極めて大事である。震災に関するアーカイブ事業や各地の伝承施設との連携の他、仙台市博物館などの歴史を扱う施設や各地の様々な施設と連携し、より広がりのあるものとなるようにしてほしい。

## ■ 施設概要について

## 【施設の考え方について】

- ・文化芸術活動とは止まることなく継続するものなので、大規模学会等が開催される際も、リハーサル室や練習室は市民が使えるようにしてほしい。
- ・音楽ホールとメモリアル拠点が「隔てられた施設としてあるのではなく」「空間が連続性をもってつながる」というのはとても大切なところ。組織的にも一体感を持ち、世界に例のない新しいタイプの施設となることを期待する。

■このほか、基本構想中間案の記述に関する具体的なお意見については資料3-1に掲載しています。